

# 事務局評価

## 基本目標2 地域づくり

### 施策(1) 人と人の結びつきの推進

#### 目指す5年後の姿

(人が集う場に関して)

- コロナ禍で縮小した、人同士のつながりが再度、構築される
- 身近なところにサロンの集える場があり、気軽に立ち寄れる
- 参加しやすい工夫がある(参加しやすい内容、移動手段、感染症の予防等)

(情報発信について)

- 世代後ごと、対象者ごとに有効な情報発信手段がもてる
- ホームページ、SNSが活用でき、様々な人のつながり方ができる

(地域福祉社会について)

- 地域福祉社会の存在が地域で知られている
- 自治会ごとに地域の特色を生かした福祉活動ができる

#### 数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
地域サロンの 運営支援	年間3回以上 開催したサロンの数	24サロン	6サロン				27サロン
	サロンの開催場所	21か所	6か所				30か所
社協広報	ホームページへの 月間訪問者数	1か月 平均1,360人 (令和2年度)	1か月 平均2,544人				1か月 平均3,000人以上
	フェイスブックの フォロワー数	87人 (令和2年度)	182名				300名以上

## 事務局評価

	担当評価							事務局 評価	評価の理由
	地域福祉について		人が集う場に関して		情報発信について				
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)		
	地域福祉会の支援	地域福祉活動に関する研修会の開催	地域福祉会等サロン活動及びサロン立上支援について	その他、居場所づくりにつながる活動	広報誌の発行	インターネットを活用した広報	その他の広報活動、情報発信に方法について		
令和3年度	CABC	B	B	C	A	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により地域福祉会の活動が計画通り実施できないこともあったが、地域福祉に関する研修会の開催や感染症防止のための機材貸出等、実施するための工夫をすることができた。</li> <li>・地域のサロン活動について、活動再開したサロンには感染症予防対策をした。</li> <li>・新たな居場所づくりについては、具体的な検討には至らなかった。</li> <li>・ホームページへの訪問者数、フェイスブックのフォロワー数は大幅に増加できた。</li> </ul>

## 施策(2) 地域におけるセーフティネットの構築

### 目指す5年後の姿

- 親族が少ない等の方が入院や入所時に支える仕組みが地域にある
- 死後事務を請け負う仕組みが地域にある
- エンディングノートが必要な人に配布され、将来の不安に準備する仕組みがある。
- 認知症になっても地域で支える仕組みがある

### 数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
認知症ボランティア	活動するボランティアの数	のべ16名	のべ16名				のべ30名

## 事務局評価

	担当評価					事務局評価	評価の理由
	保証人や死後事務に関する取り組み		認知症に関する取り組み				
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)		
	アンカーサポート事業	エンディングノート配布、活用法の周知	認知症サポーター養成講座の開催	認知症に関するボランティアニーズの把握、活動場所の確保	行政、地域包括支援センターや認知症に関する事業所との連携を推進		
令和3年度	A	A	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規事業となる保証人や死後事務に関する取り組みについては順調に取り組を進めることができた。</li> <li>認知症関連の活動については、コロナ禍において講座開催等、工夫できたこともあったが、新たな活動の開拓には至らなかった。</li> </ul>

## 施策(3) 人権の尊重と権利擁護の充実

### 目指す5年後の姿

- 障害や病気で判断能力が低下しても、地域で安心して暮らすことができる
- 障害があっても、様々な活動に参加することができる
- 足柄上地区の成年後見制度利用促進を担う中核機関の利用が促進される
- 住民に成年後見制度が周知され、利用しやすい相談窓口がある

## 事務局評価

	担当評価					事務局評価	評価の理由
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
	日常生活自立支援事業の継続実施	法人後見事業の継続実施	成年後見制度利用促進を促す中核機関の設置及び運営	当事者活動(ピアサポーター)の活動支援	成年後見制度の啓発		
令和3年度	B	B	B	B	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんセンター事業(1)～(3)はおおむね順調に実施することができ、判断能力の十分でない方等のサポートにつながった。</li> <li>・(5)については、令和4年度から委託される「あしがら成年後見センター」にて本格的に取り組む予定である。</li> </ul>

## 施策(4) 地域共生の社会づくり

### 目指す5年後の姿

- おたがいさまネットの活動の仕組みが市内全域に広がっている
- 障害があることや病気に関して理解し、ともに暮らせる土壌がある
- 子育て世帯が社協のサービスを理解し、必要な時にサービスが利用できる仕組みがある

### 数値目標

事業名称		評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
おたがいさまネット	岡本地区	活動件数	1,072件	920件				1,300件
		活動サポーター数	1,148人	1,004人				1,300人
	南足柄地区	活動件数	195件	693件				1,000件
		活動サポーター数	214人	721人				1,000人

### 事務局評価

	担当評価					事務局評価	評価の理由
	(1)ー1	(1)ー2	(1)ー3	(2)	(3)		
	おたがいさまネット活動支援 おかもと	おたがいさまネット活動支援 みなみ	おたがいさまネット活動支援 その他	子育てサロン等団体への活動支援	子育て世帯への情報提供		
令和3年度	B	B	C	D	C	C	・おたがいさまネットはコロナ禍において順調に活動を継続することができた。活動を実施していない地域に対する働きかけの結果、壺下が開始したが、他の自治会には動きがない状況である。 ・子育てサロンについては、コロナの影響により再開されず、取り組みができなかった。

## 施策(5) 自助、互助、共助による防災体制の構築

## 目指す5年後の姿

- 災害発生時に地域で支えあう仕組みがある
- 災害ボランティア運営マニュアルの見直しが完了し、すぐに活用できる状態になっている
- 社協職員、ボランティアを対象とした運営訓練が定期的実施され、ノウハウが身についている
- 災害時に地域や他団体と連携、協力できる仕組みがある

## 数値目標

事業名称	評価指標	令和元年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 令和7年度
災害ボランティア	運営訓練の実施	2回実施	1回				年間1回以上、定期的に実施
	災害ボランティア登録者数	42人	42人				60人

## 事務局評価

	担当評価			事務局評価	評価の理由
	(1)	(2)	(3)		
	災害ボランティアセンターの運営準備	情報発信及び災害ボランティア養成	足柄上地区等、広域での連携		
令和3年度	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化会館でのセンター運営訓練を初めて実施し、会館職員の参加もあり、連携を図ることができた</li> <li>・訓練の実施により、使用する様式の変更等、見直しができる。</li> <li>・災害研修会では、コロナ禍のため、感染症対策をテーマに取り入れて開催した。下半期に予定していた研修会は、コロナ感染拡大のため、4年度に延期し開催する予定である。</li> </ul>

# 推進評価委員会評価

## 基本目標2 地域づくり

### 令和3年度 達成度

評価基準は、次の4段階

「A」 計画通り実施した(80%以上の達成)

「B」 概ね計画通り実施した(60%以上)

「C」 計画通り実施できていない(40%以上)

「D」 未実施、実施できなかった(40%以下)

施策	施策内容	委員会評価	委員会評価の理由
施策(1)	人と人の結びつきの推進	B	○コロナ禍で、実際に対面でのコミュニケーションが難しい分、広報誌等の情報発信に力を入れて取り組むことができている。
施策(2)	地域におけるセーフティネットの構築	B	○認知症に関する取り組みは、今後より進む少子高齢化により生じる地域課題に対する解決策の1つとして重要である。 ○認知症サポーター養成に力を入れ、受講した方が活動へつながる取り組みを進めていただきたい。
施策(3)	人権の尊重と権利擁護の充実	B	○高齢化が進み、成年後見制度の重要性は増す。あしがら成年後見センターの適切な運営を望む。
施策(4)	地域共生の社会づくり	C	○コロナ禍で、サロン活動等に制約があったことはやむを得ない。 ○おたがいさまネットの活動は、制度ではカバーできない地域ニーズを解決する上で有効である。 ○今後、このような活動に対してのニーズが高まることが予想されるため、市内全域に活動が広がることを期待したい。
施策(5)	自助、互助、共助による防災体制の構築	B	○防災体制の構築には、日頃からの準備が重要。計画的に進めていただきたい。

### 総合評価

○少子高齢化が進む中で、要介護高齢者や障がい者の生活を支えるには、公的なサービスの充実とともに、「おたがいさまネット」のようなボランティア活動の充実が必要となる。今後も、支え合い・助け合う地域社会づくりを目指して、地域福祉会やボランティア活動等の支援を継続して欲しい。また、市民が地域福祉活動に参加するきっかけづくりも重要なので、検討していただきたい。

○地域課題は多岐にわたっているので、社会福祉協議会として、行政や関係団体、市民との協働により取り組めることを整理し、解決に向けた検討を進めていただきたい。

○認知症の方々を地域で支える仕組みの構築に向けて、認知症サポーター養成に力を入れ、受講した方が地域での活動につながる取り組みを進めていただき

